

組合主催の展示会を初開催 新たな素材や施工技術への対応力を高める

山梨県板金工業組合

山梨県板金工業組合（田中仁理事長 組合員 72社）は6月7日、笛吹市石和町の「ホテル石風」で、建築資材や工具メーカーの協力を得て組合主催の展示会を初めて開催した。これまで組合員とメーカー各社が一堂に集まるのは新年会や総会後の懇親会などに限られ、これまでも各メーカー主催の展示会を組合員が個別に見学するにとどまっていた。そこで、メーカー各社の製品や新技術を知り、組合員の施工技術や売上の向上につなげるため、田中理事長のもと執行部が中心となり企画し初めての組合主催の展示会となった。

かつての建築板金はトタン屋根や雨どい等の施工が中心であったが、現在では建物の外回りも板金業者が外壁材により施工することも増え、あわせて、様々な素材や施工法の開発により、建築板金業界は新素材・新施工法に対応した技術力の向上が日々求め



展示会の開催前に出展者に挨拶する
田中理事長(中央)と執行部

られている。

今回の展示会には16のメーカーが出展し、日頃現場で使用する屋根材や機具・工具などが展示された。永年同一メーカーの製品を愛用する組合員もいるが、他社製品や工法等の情報を得ることで仕事の幅が広がり作業の安全性や効率性の向上に寄与するケースもあることから、参加した組合員はメーカー担当者に用途や仕様等について熱心に質問するなど、有意義な展示会となった。

今年3月に理事長に就任した田中理事長は、「組合の存在意義や必要性が問われる中で、組合が主体となって実施することに意義があった。こうした活動が組合の結束力や組織力を強固にし、組合員外の板金業者にも認識してもらい組合加入の動機付けにもなる。今後も組合員にとって必要とされる組織として、執行部一丸となって積極的に活動していきたい。」と抱負を語った。



自社の製品説明をする出展者